

今年の1月11日、南通り商店街にお花屋さんがオープンした。ドアを開けてお店に入ると、やさしい花の香りに包まれる。「季節によって香りは変わりますが、春の花は特に香りがいいんですよ」と話すのは、フラワー愛夢を経営する菅野和美さん。菅野さんは高校卒業後、釧路市のお花屋さんに就職。その後、いったんは花屋の仕事から離れるも叔母からの誘いで、再びお花屋さんで仕事をするようになる。「叔母は、コープさっぽろの白糠店と星が浦店にある花ステーション

を運営しているのですが、いずれはその跡取りになってほしいという話がありまして、またお花屋さんで働くことにしました。ですが、働いているうちに、だんだんと早く自分でお店を持ちたいという気持ちが湧いてきて、叔母に独立させてほしいというお願いをしたんです。それで、コープさっぽろ白糠店の花ステーションを継承するという形で独立することになりました」

独立をした矢先、まさかのできごとが起こる。コープさっぽろ白糠店の閉店だ。

「本当にびっくりしました。起業した後に閉店の話を聞いたので。周りからは『それならば釧路市でお店を開いたら?』と言われましたが、やっぱりここまで白糠の皆さんに良くしていただき、育ててもらったので、店舗がなくなるからといって、白糠から出ていくのはちょっと違うと思ったんです。それで、新しい店舗を探すために商工会へ相談したところ、空き家バンクを紹介されました、今の店舗を見つけることができました。商工会の方や店舗の所有者には本当に親切にいただき、とても感謝しています」

菅野さんは花屋をやる上で心がけていることがある。

「花を買いに来られる方は、贈る相手のことを想像してお店に来ます。それはお見舞いの花かもしれない、感謝の気持ちを伝える花かもしれない。お店に来る人たちの思いが、花に形を変えるんです。ですから、どんなお客さんとでも、コミュニケーションを大切にして、その思いに寄り添いたいと思っています」

お店の「愛夢」という名前は、菅野さんが以前飼っていた大好きなネコの名前だ。

「生後3カ月くらいで亡くなってしまったネコなんですけど、いつか自分でお店を開くときがきたら、そのネコの愛夢という名前を付けようと思っていました。名前だけでも生き返らせてあげたいなって」

菅野さんの目標は、商店街ににぎわいを呼ぶこと。商店街を花で飾り、にぎわいのある場所に生き返らせる。「愛夢」とはそんなお花屋さんになるかもしれない。

菅野和美

すがの かずみ

1972年8月14日生まれ。釧路市出身。釧路西高等学校卒業後、さかたの花(釧路市)に就職。その後、薬局などの仕事を経て、コープさっぽろ白糠店にあった花ステーションに勤める。息子と2人暮らし。趣味はビールを飲むこと。



「お花を買いに来るお客さんの思いに寄り添いたい」



好きな言葉は「おかげさま」。「皆さんのおかげでお店を開くことができました」と菅野さん。